

シヨンガウアー讃

神は未だ恐怖にて在り
死の硬直は赤児にさえ狂気を呼び覚まし
右手に法印を結ばせる

即物から今、解き放たれようとする視線は
腐乱の先に無の奈落を避けるが故に
復活の幻想も未だ腐臭をまぬがれえない

どうせなら見目美^{うるわ}しき若者として蘇らせればよいものを
何と、神の姿はゾンビそのもの
御丁寧に、傷口からは粘っこい体液さえ垂れ流している

皮膚はゴムの如くに生ける死体を包み
十字架の傷口の周りでは生々しく盛り上がっている
おお、しかしよく見ればここにはヒューマニズムの開花があるではないか！

肉は肉として意識され
閉ざされていた肉欲は遂に精神へと投じられ

ああ、再び目は葛藤^{うち}の中に見開かれたのだ
神より解き放たれようがため・・・

(1991.7.16)